



平成6年 生活科学研究の焦点はここだ！

遠とはなく、コマ屋をやりたいYちゃんと一緒にたんでね。私の見方が間違っていました。反省します」

3 子どもの見方・考え方の源

K君の牛乳パックのショーウィンドウ、I君のススキの茎の刀、いずれも中井先生も私も考えなかった。物の見方・考え方の源である。牛乳パックの上は閉じるもの、ススキは穂が中心という教師二人の常識が彼らの見方・考え方を評価する目を曇らせた。なぜこのような物の見方が出てきたのか。中井先生は私にもわかりませんが、と言いつつ次のように話してくれた。

「だいたい、みんな私の指導なんか聞かないんです。一学期のころはよく聞いてくれたんですけど、でも二学期になるとだんだん聞かなくなつて。子どもたちが自信もつちやつたみたいなんです。自分の好きなようにやっつていいんだって。国語や算数の授業は正解がありますが、生活科にはないですよ。工夫したり発見したことを先生に教えてあげる。先生のものよりもつと面白くものを作つてみよう。先生が知らないものを見つけてあげよう。とにかく私はほめるだけ。私が教えられることばかりでしたので。」

生活科以前なら、一年生の一学期は

は机を並べてカンパンを置くだけだった。そこで、中井先生とK君の間に次のようなやりとりがなされた。

「(中井) 虫をどうやって売るのが」
「(K) ア、ソウダ、牛乳パックでもいい？」
「(中井) それに急いで生活科室から牛乳パックを持ってきた。それを見て」
「(中井) それに入れるの、虫が見えないよ」
「(K) 横に窓をあけるよ」
「(中井) 窓から逃げるんじゃない」
「(K) ウーン、だいたいようぶ」
「(中井) そう……。」

中井先生は、失敗するかもしれないがそれもいい経験、と思いつつK君にまかせた。牛乳パックは閉じて使うものと考えていたからである。だが、当日は先に紹介したように蜂の巣状に並んだ牛乳パックの上から虫が一匹ずつ見える見事なショーウィンドーになっていた。ちなみに、一匹パックは縦長のため虫は逃げられなかった。

2 ススキの名刀とコマ屋の女主人

次にかたな屋のI君。彼は活動の真つ最中に教室の片隅で一人黙々とカッターでススキの穂を切り捨て、残った茎に色を塗っていた。私は「何作っている？」と聞いた。返ってきた答えは「カクナ。これには驚いた。ススキといえば穂。それを捨て、I茎を刀と

先生の話しを聞けるようにするための学級づくり、二学期から本格的な授業をと考える先生が多くなかったか。中井先生は逆、自分の話しを聞かなくなるのが一学期の成果。もちろん、全く聞かないのではない。先生の予想を越えて子どもが工夫し発見(これが物の見方・考え方)できるようにすることが学級づくり目的。そのために中井先生が最も気をつけたことは、子どもも一人一人に「ほめる」ことと、自信を持たせることであつた。

4 子どもは異文化の住人

子どもの物の見方・考え方は一般的な普遍的なものとして存在するのではない。個別的で具体的な行動の過程にしか現れない。さらにそれは一人一人異なるものであり、時と場と相手により変化するものでもある。このような変化流動する子ども個々の多様な見方・考え方の現れを教師が見いだす場が生活科の活動。一つ一つの活動の中で見えてくる子ども一人一人の姿の積み重ねの中にしか、その子にとっての物の見方や考え方の特性、個性やその育まれる過程を見出しえない。

したがって、子どもの物の見方・考え方を見直すための第一の課題は、改めて一年間の活動過程で一人一人の子

どもが何を表現したかを、具体的な活動とセットで問い直すことである。

第二の課題は、その子どもの現れと教師である自分の指導(支援)や予想(見方・考え方)との関係を自己評価することである。その際に自分の予想どおりに子どもが考え行動したと評価する教師は生活科に関する限り落第。

K君の牛乳パックショーウィンドーやI君のススキの名刀が教えてくれるように、子どもの見方・考え方は私たちと異なる世界に生きる異文化の住人、すなわち、大人の常識の世界(ヒト、モノ、コトの定義)と広義の物の世界の見方・考え方とは、異なる見方・考え方を有する存在。だからである。

さらに、Aちゃんが教えてくれるように、子どもは学校の外の世界で学び育っている。だが、そこで培った見方・考え方を従来の学校の教科がどれほど評価してきたか。逆にAちゃんのような子どもに消極的というラベルを貼らなかつたか。もし教室にその見方・考え方に不安な子どもがいれば、この一年、その子の日常生活全体(学校と家庭とその間の世界)を視野においた多様な活動をどれほど用意できたかを問いなおしてほしい。これが第三の、そして最も重要な課題である。

子どもの物の見方・考え方 見直しの課題

馬居 政幸
静岡大学

1 牛乳パックのショーウィンドー

昨年の十一月初旬、伊豆の伊東南小学校を訪問した。中井久美子先生が担任する一年三組の生活科の授業「あきとおそぼう(教えてあげてね宝物)」に参加するためである。

南小は伊東線川奈駅から車で5分、校門から柳並木が続き、左に校舎、右に市民グラウンドが広がる。このグラウンドが子ども達の探検場。そこで見つけた「秋の宝物」を自慢しあう子どもたちの中井先生は「楽しいたくさんさんの宝物、みんなに教えてあげようよ」と家族をお客に招いてのお店形式の発表会を提案した。この活動で見出した三人の子どもの見方・考え方を手掛かりに、本稿の課題に答えたい。

まず、パック屋のK君。彼は1と牛乳パックを蜂の巣状に並べ、その一つ一つに、朝、グラウンドで見つけたコロギヤ鈴虫を入れて売っていた。私がコロギヤを注文すると、パックから取り出して別のパックにエサとともに入れてくれた。その手際のように驚き、授業修了後、中井先生にどのような事前指導を行ったかを聞いた。

中井先生は「あんなにうまくいくとは思っていなかったんです」と前置きして、K君との準備段階でのやりとりを話してくれた。それによると、最初

見ろ。ことを考え、つかかかったからである。中井先生も同じ、こんなものが売り物になると、考え、られなかった。だが懸命に作っている姿を見て、激励のつもりで色塗りを提案したところが開店したら大好評、あわてて増産している場面に私が遭遇した。

もう一人紹介しよう。今回の活動で中井先生が最も驚いたのはコマ屋のAちゃんの成長。先生は彼女を友達の後について活動するおとなしい子と思っていた。ところがなぜか今回は仲良しグループから離れてそれほど親しいYちゃんとコマ屋を始めた。少し心配したが、Yちゃんは積極的な子なので何とかなるだろうと見守っていた。それが実際にリーダシップを発揮したのはAちゃん。家から持ってきた大皿のダンボールを床と囲いにして卵形の店屋をつくり、コマを入れる小袋を家の包装紙でたくさん作ってきた。

実はAちゃんの家は酒屋さん。彼女の日記には店を手伝っている様子がよく書かれていた。だが、教室の中の友達との間では消極的な姿しか見えなかつた。中井先生は活動後、次のように私に語ってくれた。

「家で培った力ですよ。自分の力を発揮できる場をやつと見いだしたな、と思いました。だからいつもの友

生活科研究の 到達点・不満点・改善点



●生活科研究のポイントがつかめる連載!

●生活科実践の全体像は

それなり?に出揃ったともいえる。今後の問題点はどこだ?!

◀特集ガイド



◆グラフィアドキュメント「生活科授業パフォーマンス」
写真で見る「生活科の歩み」
津川 裕 1

◆全国生活科ホットライン情報
生活科授業のイメージ・予想と現実のズレはどこか?と問われたら
熱海則夫・加藤幸次 無藤隆 9

◆識者3人に聞きました「教科としての生活科」
私の探求表と次期改定への意見
他教科へのインパクトは? / 森隆夫 型はめと表面的な活動主義からの脱皮を / 水越敏行 10

子ども心の世界をさぐっていく授業づくりを / 日台利夫 体当たりの仕事を / 清水毅四郎 11

経験の価値こそ問いたい / 長沢憲保 子どもの再発見する教科 / 松本 謙 12

めざす子ども像をしっかりと見据えて / 副島利彦 ゆったりと、こんな見方でやってみよう / 仲野 哲一 13

平成10年・生活科研究の焦点はここだ!
子どもの活動の質と方向―見直しの課題
村上 宗二 14

子ども物の見方・考え方―見直しの課題
馬居 政幸 16

支援と指導との関係―見直しの課題
藤井 千春 18

生活科マップづくり―見直しの課題
大前 宣徳 20

生活科暦づくり―見直しの課題
塚田 賢 22

生活科で育てる学力―見直しの課題
南館 忠智 24

生活科授業への要求・要望・改善への提案
指導計画の立て方―改善点はどこか
浜田 純 26

単元構成のあり方―改善点はどこか
寺尾 慎一 28

学習環境づくり―改善点はどこか
小林 宏己 30

教材開発・教材精選―改善点はどこか
斎藤 治 32

素材の選び方と開発―改善点はどこか
古川 鉄治 34

教具の使い方と開発―改善点はどこか
武村 重和 36

表現活動のさせ方―改善点はどこか
五島由美子 38

評価の方法―改善点はどこか
高浦 勝義 40

指導案の立て方―改善点はどこか
谷川 彰英 42

授業参観のあり方―改善点はどこか
魚住 忠久 44

教科書の活用―改善点はどこか
井戸 紀子 46

「探検活動」の不満点・改善点はどこか
有田 和正 48

「飼育活動」の不満点・改善点はどこか
山口 令司 50

「栽培活動」の不満点・改善点はどこか
森 一夫 52

「製作活動」の不満点・改善点はどこか
実野 恒久 54

「イベント活動」の不満点・改善点はどこか
伊藤 博敏 56

現場報告「生活科改定への私の提言」
1年の生活科・改定への私の提言 沼沢千佳子 / 若手三喜雄 / 安達裕司 58

2年の生活科・改定への私の提言 白樫静枝 / 戸井和彦 / 岡崎智利 64

●生活科実践の全体像は
年度のまとめ (2) 嶋野 道弘 70

○こんなところがある相談室 12 家光 大蔵 72

●生活科研究のポイント 12 中野 重人 76

●生活科研究のイメージ
いま、生活科で問われていること (2) 馬居 政幸 74

●生活科研究のイメージ
「これは便利すべし」生活科カード 渡部 敬・大木俊宏 80

●生活科研究のイメージ
「これは便利すべし」生活科カード 遠山清美・馬島隆美 84

●生活科研究のイメージ
「これは便利すべし」生活科カード 表紙デザイン・カット / 飯島英明

●生活科研究のイメージ
「これは便利すべし」生活科カード 表紙3・4 / 子どもの作品紹介 / 滝口義廣